

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日(平成16年8月30日)

事業コード	H16-農-継-18		区分	国庫補助・県単独
事業名	流域循環資源林整備事業		部局名	農林水産部
事業種別	補助事業(林道事業)		課室班名	森林整備課 林道班 (tel)1945
路線名等	蒲台		担当課長名	森林整備課長 佐々木 誠
箇所名	由利郡東由利町老方		担当者名	主幹(兼)班長 小滝 光和
総合計画との関連	政策コード	N	政策名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	5	施策名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進
	目標コード	2	施策目標名	効率的な森林整備の推進

1. 事業の概要

事業期間	H14~H21(8年)	総事業費	7.71億円	国庫補助率	50%	
事業規模	森林管理道 幅員4.0m、延長4,920m 利用区域面積211ha					
事業の立案に至る背景	蒲台地区には豊富なスギ人工林が存在するが、周辺には軽車道等しか存在しないため、適正な保育間伐等森林整備が行われず、森林の多面的機能が低下している。 既存の低規格道路を有効的に連絡し、林道・作業道の一体的整備により効率的な森林施業を推進するための路網整備が強く要望されている。					
事業目的	森林整備実施のための基盤整備。 森林施業の集約化や機械化を通じた効率的な森林施業の実施。 林業生産コストの低減。 木材の定量的かつ効率的な供給が可能となる育成林の資源量を増加。 生産される素材の循環利用により、地域林業経営を支える。					
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)					
		全体	H15年度迄	H16年度	H17年度	H18年度以降
事業費内訳	事業費	771,000	82,000	52,000	52,000	585,000
	経費内訳					
	工事費	724,000	76,842	48,842	48,842	549,474
	用補費					
	その他	47,000	5,158	3,158	3,158	35,526
	財源内訳					
国庫補助	385,500	41,000	26,000	26,000	292,500	
県債	346,000	36,000	23,000	23,000	264,000	
その他						
一般財源	39,500	5,000	3,000	3,000	28,500	
事業内容	幅員4.0m 延長4,920m	幅員4.0m 延長378m	幅員4.0m 延長300m	幅員4.0m 延長322m	幅員4.0m 延長3,920m	
事業推進上の課題	なし					
上位計画での位置付け	「全国森林計画」による森林整備目標(林道の開設その他林産物の搬出に関する事項)に基づき「子吉川地域森林計画」に林道整備路線として当該路線が計画されている。					
関連プロジェクト等	緊急間伐5ヶ年対策と連携。 利用区域内には間伐計画が39haある。					
事業を取り巻く情勢の変化	地球温暖化防止対策が求められており、間伐等のための基盤整備が求められている。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	県全体における林内路網密度		データ等の出典	林道事業実績報告	
	指標の種類	成果指標(業績指標)		把握の時期		
	指標式	林内路網密度=林道延長÷民有林面積				
	目標値a	7.5m/ha(平成22年度末)				
	実績値b	6.0m/ha(平成15年度末)				
達成率b/a	80%		16年 5月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	森林に直結する木材搬出道路は、計画路線周辺に無い。 計画路線利用区域内の森林は適切な森林整備を必要としている。 森林施業は肉体的に負荷の大きい作業であり、森林整備を効率的に進めるためには、林業労働者の負荷を軽減することが不可欠である。	点 18
緊 急 性	地球温暖化防止対策として、早期に森林整備を実行する必要がある。 路網整備による基盤整備を推進し、「植栽 保育 収穫 植栽」のサイクルを円滑に循環させ、自然界における物質の適正な循環を基調とする社会の形成を定着させる必要がある。	点 10
有 効 性	既存の低規格道路を連絡することにより、森林を健全な状態に導く施業が現状より容易に実施できる。 隣接する市町村に繋がる国道107号線やふるさと林道「三ツ森山線」さらには主要地方道「横手・東由利線」等を有機的に連絡する路網が形成される。	点 15
効 率 性	事業の費用便益比は1.68である。 ・総費用 670,950千円 ・総便益 1,126,878千円 事業費は詳細設計等各段階において、コスト縮減を検討する。	点 28
熟 度	初年度は全体計画調査の実施であり、工事着手後1年経過した段階であるため、本格的な効果の発現はまだ見られない。	点 16
判 定	ランク（ ○ ） 林業労働者の高齢化、林業機械の導入等が課題となっている現在、当該山村地域における環境改善に資するものとして、当該整備の有効性は高いことから引き続き実施すべきである。	点 87
総合評価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施個所としての優先度は高く、事業は実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

森林の適切な整備と森林施業の効率化を図る基盤として重要な役割を果たすことから、計画どおりの完成を目指し実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所

事業コード (H16 - 農 - 継 - 18)

箇所名 (蒲台線)

適用事業名

林道事業：森林環境保全整備事業・森林居住環境整備事業の森林基幹道及び森林管理道

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	計画の進捗状況					
	事業の進捗状況	計画より進捗している：進捗率100%以上 おおむね計画どおり進捗している：80%～100%未満 計画より遅れている：80%未満	10 5 1	10		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 課題はあるが、当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 1	5		
	社会情勢における必要性					
	社会経済情勢変化による需要変化	需要は増大している 需要に特に変化はない 需要は低下している	5 3 1	3		
	計		20	18		
	緊急性	森林整備状況				
		要整備森林の占有度	利用区域の4齢級以上の蓄積が70%以上 利用区域の4齢級以上の蓄積が70%未満	5 3	5	
		他事業との関連				
		他事業との連携	他事業と連携しており、緊急性が高い 他事業と連携が無く、緊急性も低い	5 3	5	
計			10	10		
有効性	開設による有効性					
	間伐材等の活用	活用可能な全てに活用 一部使用 使用なし、または、検討中	5 3 1	5		
	森林整備計画	森林整備計画に対する達成率100%以上 森林整備計画に対する達成率90%～100%未満 森林整備計画に対する達成率80%～90%未満	10 7 5	7		
	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	事業の効果達成率が100%以上(事業評価) 事業の効果達成率が80%～100%未満(事業評価) 事業の効果達成率が80%未満(事業評価)	5 3 1	3		
	計		20	15		
	効率性	事業の投資効果				
費用対効果指数(B/C)		B/C=1.45以上 B/C=1.45未満	10 5	10		
コスト縮減の検討						
コスト縮減計画		実施している、または、今後実施する予定 実施していない、または、検討中	10 1	10		
計画の効率性						
設定工期		設定工期内に余裕を持って完成が見込まれる(80%) 設定工期に完成が見込まれる 設定工期を更に延長する必要がある	5 3 1	3		
事業費の増減		当初計画事業費以内 30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5		
計			30	28		
整 度		地元との合意形成の状況				
		事業関係者、関係機関との協議・調整	基本事項が確認済 協議中であるが、特段の問題はない 今後協議する予定	5 3 1	3	
	施設の管理体制	林道管理規定等を制定している 林道管理規定等を制定していない、または、今後制定する予定	3 1	3		
	施設の維持管理	維持管理費を毎年予算化し、適切に管理している 維持管理費を必要な年のみ予算化し、適切に管理している	5 3	3		
	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している	7 3	7		
	計		20	16		
	合 計		100	87		

2. 判 定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
○	優先度がかなり高い	80点以上	87	
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		